

— 和太鼓同時演奏2014 —

ふたたび、世界一への挑戦！

2007年6月、「盛岡さんさ踊り」30周年を記念して取り組んだ「和太鼓同時演奏世界一」への挑戦。みごとに息の合った太鼓演奏によって、それまでの記録を620個も上回る2571個で世界記録を更新し、ギネスワールドレコーズ社より「世界一の和太鼓同時演奏記録」として認定されました。しかし、2011年には、熊本市がさらなる記録を更新。それを受けて今年6月「盛岡さんさ踊り実行委員会」は再度、世界一に挑戦します。



再挑戦への思いを抱え 昨年からの準備

2011年10月9日、熊本市で行われたデスティネーションキャンペーンのオープニングイベントで、「世界一の和太鼓同時演奏記録」が塗り替えられました。「熊本に記録を破られた時は、やはり悔しい思いでした。そこで、世界一の太鼓パレードというキャッチフレーズを奪還しようと、皆で再挑戦を決めた。震災復興の気運向上につなげたい思いも強くあります。笑顔と躍動感、リズム、子どもから大人まで参加者の幅広さもさんさ踊りの良さ。『東北の元気』が見える形で発信したいと思います」。



「世界一への再挑戦は、東北からの元気発信の形」と多くの参加を呼びかける鈴木さん

実行委員会・副会長の鈴木稔さんは、再挑戦への意気込み十分。熊本の記録は2778個でしたが、今回はその数を大きく上回る4000個を目標にしています。会場については集まりやすさ等を考慮し、岩手県営運動公園に決定。前回の課題を見直したうえで日時を検討し、子ども達も参加できる6月29日(日)12時30分からの開催を予定しています。

「できるだけ学生さんの試験日程とぶつからないよう調整したつもりです。地元を離れて県外にいらつしやる方も、休日なので日帰りで参加することも可能ですよ」と、幅広い層の参加を呼び掛ける鈴木さん。

地域の祭りから 東北を代表する祭りへ

そもそも地域ごとに曲目や舞の違いがあるのが、伝統さんさ踊り。それを市民総参加で楽しもうと、踊りを統一した「盛岡さんさ踊り」が生まれたのは昭和51(1976)年のことです。以来、徐々に参加団体が増え、今や東北を代表する祭りへと成長。中でも、震災後にはじまった



「日曜昼の開催なので、小中高校生やちびっこさんにも期待している」と浅沼さん

東北六魂祭、台湾や中国など海外での反響は地元と桁違いなのだとか。盛岡さんさ踊り振興協議会・会長の浅沼久志さんは、遠征に向うことで「盛岡さんさ踊り」が全国区になったことを改めて感じています。



2007年6月盛岡競馬場OROパークで実施した前回の挑戦。会場の都合から開始時間や隊列の組み方に制約がありました。今回はその課題を踏まえて日時と場所を決定

撮影や握手を求めに多くの人が集まってくる。また、東北六魂祭は通常の祭りを越え、東北各地の祭りが競い合うムーブメント。周囲の皆さんの思いに伝えるためにも『世界一の太鼓パレード』というキャッチフレーズを再び目指したいと思います。

一人でも多くの参加を期待！

7年前の挑戦で世界一になったことで、幼稚園や小中高등학교などに「盛岡さんさ踊り」が深く浸透しました。参加者は、魅せる部分に意識するようになり、太鼓や踊りの技術もかなり向上しているとのこと。同時演奏の技術的不安は全くないので、今回の挑戦における第一の目標は参加者をいかに集めるか。募集開始時期もかなり早めています。

「参加当日だけではなく練習過程も楽しみながら、一緒に世界一に挑戦したい」と浅沼さん。参加者一人ひとりが達成感を感じられるように、エントリーナンバーを入れた缶バッジも製作予定。世界一に挑戦する一員であるという意識を共有することも、再挑戦における大きな意義といえます。

「盛岡だけに留まらず、さんさ団体があふれる紫波、矢巾、雫石、滝沢にも参加を働きかけています。世界一への挑戦は岩手県の観光面でも大きなPRになりますから、そのためにもより広い括りを取り組みたい。」

そう話す鈴木さんは、この挑戦によって高まる地域の連帯感にも期待を寄せている様子。単なる記録奪回ではなく、世界一の太鼓パレードという誇りを、多くの参加者と地元住民が分かち合えるという点でも、価値ある取り組みと考えています。

スムーズな運営のためには、太鼓奏者だけでなく受付や駐車場係などボランティアスタッフの協力も必要です。2014年6月29日、和太鼓同時演奏世界一記録をふたたび更新する舞台にいる……。その感動を、一緒に味わってみませんか。親子で、あるいは仲間同志で。

取材／「SANSAN」企画編集委員会



震災以降、海外でのPR機会も増えました。躍動感あふれるさんさ太鼓の素晴らしさを伝えるうえで、この挑戦は大きな弾みになるはず